

## 話しやすさ

2024.6.20

仕事上、人の前で話すことが多い。振り返ってみる。小学生、小学生の保護者、小学校の先生方、中学生、中学生の保護者、中学校の先生方、高校生、高校生の保護者、高校の先生方の前で話したことがある。何度か大学生にも話をした。

話す対象となる先生をもう少し詳しく見てみる。小学校と中学校、高校の新任の先生方、採用後5年を経過した先生方、採用後10年を経過した先生方、20年以上の経験がある先生方、新任の教頭先生、新任の養護教諭および経験年数10年程度の養護教諭などがある。そして、現在は、幼稚園の園児と保護者、幼稚園と認定こども園の先生方の前で話すようになった。

話す相手、集団によって、話しやすいときとそうでないときがある。一番話しやすいのは、新任の先生方である。それも、小学校の先生方である。反応がよい。一般的に、研修に来ている先生方には話しやすい。笑顔でうなずいてくれたり、目を輝かせて聞いてくれる。何かを吸収しようとする姿勢が感じられる。

一方、無表情で反応がないときは、話しにくい。そうになると、ちょっと笑いをとってみようかなどと、余計なことを考えてしまう。今までで、一番うまくいかなかったのは、話す相手が大人の方のときだった。会場は、地域の公民館、現在の学習センターだった。「国際セミナー」ということで、40代から70代ぐらいの方たちに参加していただいた。

イタリアのローマ日本人学校から日本に戻った夏だった。イタリアと日本を比較することで、日本のことを考えようと話を組み立てた。ところが、どうも反応がよくない。話しにくい。どうやら、日本のことを批判しているように聞こえたらしかった。年輩の方にとっては、自分の国、日本のことをよく言わないことに気分を害されたのかもしれない。後味がわるかった。

数え切れないほど、人前で話してきたが、うまくいかなかったワースト1となれば、前述の国際セミナーである。果たして、参加者のニーズや期待にできていたのか。考えてみると、話す相手がどんな集団なのかが一番わからなかったのが、このときだった。

話しながら、相手がどんな集団なのかを探るときがある。その場の雰囲気というものもある。学校に出かけていき、先生方に話すことが多い。学校によって空気が違う。そのときの空気感によって話し方を変えることもある。

幼稚園の園児たち、保護者、先生方、いずれも話しにくいということはない。ただ、子どもたちに話すのはむずかしい。慣れてくれば解決するというものでもないだろう。まずは、刺身のつまのように必ずついてくる“園長先生のお話”を少しでも魅力的なものにしていきたい。